

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

Osaka National Hospital



独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターニュース

News

No.64

令和元年5月

このニュースは、年4回、
大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。
詳しいお問い合わせは
地域医療連携室までお寄せください。



目次

地域医療連携室より

- ・講演会のご案内 2
- ・新任及び退職医師のお知らせ 3

病院のトピックス

- ・三田英治副院長 就任のご挨拶..... 4
- ・平尾素宏統括診療部長 就任のご挨拶..... 5
- ・田宮裕子精神科科長 就任のご挨拶..... 6
- ・加藤研糖尿病内科科長 就任のご挨拶..... 7
- ・第46回 法円坂地域医療フォーラム 8
- ・第65回 おおさか健康セミナー開催報告 9
- ・脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内 ... 11
- ・NHO PRESS ～国立病院機構通信～について... 11

独立行政法人 国立病院機構 **大阪医療センター**

地域医療連携室

令和元年5月発行 64号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14

TEL.06-6946-3516

☎ 0120-694-635

FAX.06-6946-3517

[HP] <https://osaka.hosp.go.jp>

[E-mail] 408-comonh@mail.hosp.go.jp

～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

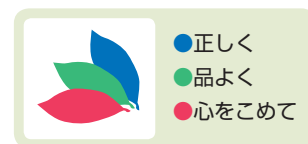
- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

1) 政策医療の推進

- ・ 基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・ HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・ 3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・ 専門医療と総合診療の充実
- ・ 医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）



2) 高度先進医療への貢献

- ・ 技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・ 臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等の臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・ 臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

3) レベルの高い医療人を育成

- ・ 卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・ 卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・ 専門職の育成

4) 情報開示と情報発信

- ・ 透明性を保った情報の開示・発信

講演会のご案内

開催日時	件名	内容	対象者
令和元年6月29日(土) 15:00～17:30	第47回法円城地域医療フォーラム 於 KKRホテル大阪 14階「オリオン」	テーマ：脳と心を診る 担当：脳卒中内科・精神科	医師及び 医療従事者
令和元年8月24日(土) 14:00～16:30	第67回おおさか健康セミナー	テーマ：未定 担当：下部消化管外科	一般市民
令和元年10月26日(土) 14:00～16:30	第68回おおさか健康セミナー	テーマ：未定 担当：耳鼻咽喉科	一般市民

開催場所 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階講堂 **アクセス** 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅①号出口すぐ

問合せ 地域医療連携室（電話：06-6946-3516）

新任及び退職医師のお知らせ

新任医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
2019/4/1	糖尿病内科科長	加藤 研	昇任
2019/4/1	救命救急センター診療部部长	大西 光雄	採用
2019/4/1	精神科科長	田宮 裕子	採用
2019/4/1	放射線治療科医師	高岡 祐史	採用
2019/4/1	糖尿病内科医師	山本 裕一	採用
2019/4/1	外科医師	俊山 礼志	採用
2019/4/1	外科医師	三代 雅明	採用
2019/4/1	精神科医師	水田 直樹	採用
2019/4/1	耳鼻咽喉科医師	大西 恵子	採用
2019/4/1	感染症内科医師	榊田 智仁	採用
2019/4/1	脳卒中内科医師	河野 智之	採用
2019/4/1	麻酔科医師	山路 寛人	採用
2019/4/1	救命救急センター医師	松田 宏樹	採用
2019/4/1	小児科医師	山本 景子	採用
2019/4/1	循環器内科医師	小杉 隼平	採用
2019/4/1	臨床検査科医師	菌部 優大	採用
2019/4/1	専攻医 (内科)	西村英里香	採用
2019/4/1	専攻医 (内科)	向井うらら	採用
2019/4/1	専攻医 (内科)	矢島 綾子	採用
2019/4/1	専攻医 (内科)	江左 佳樹	採用
2019/4/1	専攻医 (内科)	早田菜保子	採用
2019/4/1	専攻医 (内科)	平尾 建	採用
2019/4/1	専攻医 (内科)	家原 卓史	採用
2019/4/1	専攻医 (内科)	上田 泰大	採用
2019/4/1	専攻医 (内科)	佐々木 駿	採用
2019/4/1	専攻医 (内科)	松村未紀子	採用
2019/4/1	専攻医 (内科)	高安幸太郎	採用
2019/4/1	専攻医 (内科)	西本 奈穂	採用
2019/4/1	専攻医 (内科)	茂木 孝友	採用
2019/4/1	専攻医 (内科)	宮崎 哲郎	採用
2019/4/1	専攻医 (内科)	橋詰 奈穂	採用
2019/4/1	専攻医 (内科)	清木 祐介	採用
2019/4/1	専攻医 (外科)	坂野 悠	採用
2019/4/1	専攻医 (外科)	宮崎 葉月	採用
2019/4/1	専攻医 (外科)	瀬戸 寛人	採用
2019/4/1	専攻医 (外科)	宮原 智	採用
2019/4/1	専攻医 (脳神経外科)	西本 湊佑	採用
2019/4/1	専攻医 (脳神経外科)	山崎 弘輝	採用
2019/4/1	専攻医 (整形外科)	松本 高志	採用
2019/4/1	専攻医 (整形外科)	河野壮太郎	採用
2019/4/1	専攻医 (整形外科)	高見 晴奈	採用
2019/4/1	専攻医 (放射線診断科)	二宮 啓輔	採用
2019/4/1	専攻医 (救命救急センター)	関 俊弘	採用
2019/4/1	専攻医 (救命救急センター)	國井 繭子	採用
2019/4/1	専攻医 (泌尿器科)	山本 哲也	採用
2019/4/1	専攻医 (麻酔科)	氏本 大介	採用
2019/4/1	専攻医 (麻酔科)	中嶋真理子	採用
2019/4/1	専攻医 (耳鼻咽喉科)	和田 賢人	採用

退職医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
2019/3/31	副院長 (下部消化管外科)	関本 貢嗣	退職
2019/3/31	糖尿病内科医長	瀧 秀樹	退職
2019/3/31	循環器内科	栗田 政樹	退職
2019/3/31	外科医師	植村 守	退職
2019/3/31	外科医師	前田 栄	退職
2019/3/31	精神科医師	疇地 道代	退職
2019/3/31	耳鼻咽喉科医師	笹井 久徳	退職
2019/3/31	眼科医師	内堀 裕昭	退職
2019/3/31	臨床検査科医師	清川 博貴	退職
2019/3/31	産婦人科医師	寺田亜希子	退職
2019/3/31	泌尿器科医師	辻 博隆	退職
2019/3/31	専攻医 (内科)	河本 佐季	退職
2019/3/31	専攻医 (内科)	別所 紗妃	退職
2019/3/31	専攻医 (内科)	東 優希	退職
2019/3/31	専攻医 (内科)	野津 翔輝	退職
2019/3/31	専攻医 (内科)	櫻井 玲	退職
2019/3/31	専攻医 (内科)	別所 宏紀	退職
2019/3/31	専攻医 (内科)	福島 貴嗣	退職
2019/3/31	専攻医 (内科)	堀内 恒平	退職
2019/3/31	専修医 (感染症内科)	寺前 晃介	退職
2019/3/31	専修医 (消化器内科)	庄司 絢香	退職
2019/3/31	専修医 (消化器内科)	加藤 聖也	退職
2019/3/31	専修医 (腎臓内科)	朝比奈悠太	退職
2019/3/31	専修医 (循環器内科)	加藤 大志	退職
2019/3/31	専修医 (外科)	下山 遼	退職
2019/3/31	専修医 (外科)	山口 歩	退職
2019/3/31	専修医 (整形外科)	井上 亮	退職
2019/3/31	専修医 (整形外科)	山本 夏希	退職
2019/3/31	専修医 (脳神経外科)	中川 僚太	退職
2019/3/31	専修医 (耳鼻咽喉科)	福田 雅俊	退職
2019/3/31	専修医 (放射線診断科)	木曾 建吾	退職
2019/3/31	専修医 (麻酔科)	藤井 裕美	退職
2019/3/31	専修医 (麻酔科)	鞠子千安紀	退職



副院長 就任のご挨拶

4月から大阪医療センターの副院長を拝命しました三田（みた）です。専門はウイルス性肝炎および肝臓の診断と治療です。C型肝炎ウイルスが発見されたのは昭和63年から平成元年にかけて、まさに元号がかわる時期でした。当初のインターフェロン治療はウイルス排除率が5%前後でしたが、平成の終わりには副作用が極めて少ない経口薬だけでC型肝炎ウイルスをほぼ100%排除できる時代となりました。C型肝炎治療を筆頭に、平成の30年間における医学・医療の進歩には目を見張るものがありました。元号が平成から令和にかわり、これからは人工知能（AI）や人工多能性幹細胞（iPS細胞）などが医療に大きな変革をもたらすことでしょう。楽しみでワクワクしています。

一方で、医療には医療安全、感染対策、地域医療、医療経済、働き方改革など様々な問題も浮上しています。今後この分野も、ある程度は人工知能がカバーしてくれると期待していますが、医療人一人一人の研鑽と患者側の協力が不可欠です。いかにして、円滑な病院の運営と近隣地域レベルでの医療水準を維持できるかを考えていきたいと思えます。

さて大阪医療センターのような大規模病院は診療・教育・研究を使命の3本柱にしています。ONHニュースでは教育について語られることが少ないと思えますので、ここで紹介いたします。卒後2年の初期研修は1学年14人の医師と1名の歯科医師（2019年度予定）を受け入れています。公的なマッチングシステムにのっとり選抜されます。大阪医療センターは指導層が充実しており、人気の高い初期研修先となっています。後期研修は2018年度から新専門医制度が導入され、卒後3年目からの後期専門研修を受け入れています。大阪医療センターが基幹施設として後期専門研修の中核を担うプログラムは4診療科で、内科・外科・総合診療・皮膚科です。ご子息・ご令嬢が初期研修医で、後期研修先を検討されているようでしたら、是非大阪医療センターを候補としてください。もちろん大学病院を基幹施設としたプログラムでの後期研修も引き受けています。

令和の時代も、大阪医療センターは常に最先端の先進医療を提供して、地域の住民の期待に応えられるように努めてまいります。

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
副院長 三田 英治



統括診療部長 就任のご挨拶

平素より地域医療連携を通じて、大変お世話になっています。平成31年4月1日付けで国立病院機構大阪医療センター 統括診療部長を拝命いたしました外科総括の平尾です。

私は平成元年に大阪大学医学部を卒業の後、大阪大学消化器外科学教室に入局し、上部消化管外科診療を専門にしております。

当院では、三大疾患である、がん、心臓病、脳卒中をはじめとして、広い領域の疾患を取り扱い、患者さんに高度で総合的な医療を提供するため、病院すべての能力を結集し、チームで取り組んでいます。その中には、エイズ、ウイルス性肝炎などの感染症や、高度救急救命医療、災害医療も含まれています。また、当院は、治験や臨床研究、高度先進医療をも積極的に推進しています。

このたび診療部を統括する立場となりまして、地域医療施設との連携を更に深め、外来入院患者数の増加を目指したいと思います。そして、当院の診療の特徴として、ご高齢や併存疾患を多く持つ患者さんも積極的に受け入れていることがありますが、そのような患者さんに対しても、院内各科の協力を得て「最善の治療」を提供し、全国で患者信頼度・満足度トップの病院に築き上げていけるよう努力し、3年後の病院新築に向けても院内スタッフ一丸となって取り組んでいく所存です。これからも、国立病院機構大阪医療センターをよろしく願いいたします。

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
統括診療部長 平尾 素宏



精神科科長 就任のご挨拶

4月1日より精神科科長を拝命致しました田宮裕子（たみやひろこ）でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。私は昭和63年に獨協医科大学医学部を卒業し、広島大学附属病院精神科に入局しました。広島大学関連施設で研修を受けた後、アメリカのカール・メニングークリニックの国際留学生プログラムに参加し、薬物療法や各種精神療法など幅広く学びました。平成20年からは神戸大学医学部附属病院精神科に勤務し、総合病院における精神科医療、若い医師の育成および組織運営などに携わりました。

私は精神科領域の中で摂食障害を専門としておりますが、現在のストレス社会において摂食障害も他の精神疾患同様に発症率は増え続けております。以前は思春期特有の疾患と言われておりましたが、最近では出産後に発症するケースや中年期に入ってから発症するケースもあり、発症の要因や病態など非常に個別性のある疾患となっています。しかも特効薬のない疾患で治療に難渋することがありますが、試行錯誤しながら日々診療を行っております。

当科は総合病院における精神科として、一般診療科入院中に起こるせん妄や不眠、抑うつ気分などの精神症状に対応するコンサルテーション・リエゾンを中心に活動しております。特に当院の救命救急センターは重症の患者さんの受け入れを行っている3次救急ですので、自殺企図後、重傷を負った方の救急搬送も多いです。自殺企図による救急搬送では、救命救急科からの依頼を受け、早期に精神科が介入し身体的な治療と並行して精神科治療も行います。身体的に急性期を脱した後に、引き続き精神科治療が必要な場合は、精神科に転科していただき、身体的リハビリテーションと精神科治療を目的にした入院を受け入れています。精神科病床は4床しかありませんが、自殺企図後の患者さんが身体的な回復だけでなく、継続的な精神医療や心理社会的な支援を得ることによって再企図防止につながっております。

近年、入院患者さんの高齢化に伴い当科へのニーズは高まってきております。今後はさらに精神科治療を充実させ、より良い治療を提供できるように一般診療科と連携を強化してまいりたいと考えております。

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
精神科科長 田宮 裕子



糖尿病内科科長 就任のご挨拶

4月1日より糖尿病内科科長を拝命致しました加藤研（かとうけん）でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私は平成11年に兵庫医科大学医学部を卒業し、大阪大学医学部第一内科に入局しました。その後国立大阪病院にて2年間、関西労災病院にて2年間の研修を終え、大阪大学医学系研究科病態情報内科学大学院に入学し、博士号を取得しました。大学院卒業後は、大阪大学大学院医学系研究科内分泌・代謝内科学より平成21年に当院に赴任し、東堂龍平先生、瀧秀樹先生のご指導のもと、研鑽を積んで参りました。

私が糖尿病内科医の道を志したのは、13歳で1型糖尿病を発症したことからです。また16歳時には潰瘍性大腸炎も発症しました。その時から現在まで当院の消化器内科に通院しており、患者としてのこの病院との付き合いは、30年以上にもなります。

近年、糖尿病の治療における各種経口薬やインスリン製剤の進化は目覚ましく、また最近では、CGM（持続グルコースモニタリング）やFGM（フラッシュグルコースモニタリング：腕に留置したセンサーに読み取り機をかざしてグルコース値をモニターする）などの、血糖変動を点ではなく線として可視化できるような機器や、インスリンを投与するための機器も、インスリンポンプ（CSII）、SAP（Sensor Augmented Pump：持続グルコースモニター付きポンプ）などが使用できるようになっております。それらにより、HbA1cの低下のみならず、より血糖変動の少ない質の良い血糖コントロールを、また、患者さんのQOLを上げることを目指した治療を行うための環境が整ってきました。

私はこれまで、新しいインスリン製剤や先進機器が発売されると、自ら患者としてそれらを積極的に使用し、その経験を患者様の診療にも活かせるようにと考え、取り組んで参りました。

1型糖尿病も2型糖尿病も現時点では治る病気ではなく、患者自身が付き合っていかなければならない慢性疾患です。私も30年以上難病とつきあって参りました。これからも患者さんたちの気持ちに寄り添いながら、糖尿病診療を通して、微力ながら地域の医療に貢献することができればと考えております。

当科はこの4月より私加藤と、山本裕一（医師）、光井絵理（医師）、益田貴史（後期研修医）、向井うらら（専攻医）、西村英里香（専攻医）で診療業務にあたっております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

末筆ではございますが、今まで支えていただいた多くの先生方に、心より感謝申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
糖尿病内科科長 加藤 研

第46回 法円坂地域医療フォーラム

国立病院機構 大阪医療センター 感染症内科 科長 上平 朝子

第46回 法円坂 地域医療フォーラム
 主催：『法円坂 地域医療フォーラム』実行委員会

テーマ **「HIV感染症・先天性凝固異常症」**

日時：平成31年2月9日（土）
 15：00～17：30（受付開始 14：30）
 会場：大阪医療センター 緊急災害救護棟3階 講堂

【司会】 国立病院機構 大阪医療センター 地域連携推進部長 眞 啓司

1. 開会挨拶
 国立病院機構 大阪医療センター 部長 豊性 之宏

2. 第1部
 【講演】 「HIV感染症の治療と期待される地域連携」
 国立病院機構 大阪医療センター 感染症内科 科長 眞 啓司
 【標準予防策の基本とHIVの感染対策】
 国立病院機構 大阪医療センター 感染症内科 科長 上平 朝子

第2部
 【講演】 「血友病患者におけるHIV感染の歴史—そして現在の止血治療環境—」
 国立病院機構 大阪医療センター 感染症内科 部長 西田 幸治

3. 閉会挨拶
 国立病院機構 大阪医療センター 副院長 関本 真嗣

※参加費無料 ※当日授与可 ※大阪府済生会 血液検査センター 検査申請可
 ※申し込み・お問い合わせ先：大阪医療センター 地域連携推進部 電話 06-6946-3516

平成31年2月9日（土）午後3時から当院の災害医療棟にて、第46回法円坂地域医療フォーラムを開催いたしました。院内外合わせて36名にご参加いただきました。『HIV感染症先天性凝固異常症』のテーマで講演させていただきました。

第1部は、渡邊医師が「HIV感染症の治療と期待される地域連携」について講演いたしました。日本のHIV患者数の推移、当院のHIV診療の現状を報告。続いて、HIV感染症についての最新情報について話しました。抗HIV療法の目覚ましい進歩により、全員治療が目指されており、当院通院中の患者さんでも、95%以上の方がウイルスのコントロール良好な状態を維持されています。このようなHIV感染症の予後の改善に伴い、HIVに関連しない疾患の診療需要が増加しており、多くの医療機関や施設との病診連携、病病連携が必要となってきています。今後、感染症の有無に関らず、安心して医療が受けられるような地域全体の診療体制が求められていることが話しました。

続いて、私の方から「HIVの感染対策について」お話しをさせていただきました。HIVの感染対策では、特別な対応は必要無く、標準予防策の遵守、針刺し暴露後の予防内服、暴露源のウイルス量のコントロールが重要であることを話しました。HIVの職業的暴露感染予防では、多剤併用療法が行われるようになって以降、職業的暴露によるHIV感染

は発生していません。もし針刺し体液暴露などがあれば、速やかに抗HIV薬の予防内服を開始することでさらに感染率を下げるすることができます。しかし、未検査例や検査陰性例もあることから、普段から標準予防策の遵守が大切であることをお話しさせていただきました。

第2部では、西田医師より「血友病患者におけるHIV感染の歴史—そして現在の止血治療環境—」について講演いたしました。当院での血友病および類縁疾患の診療の現状、血友病の治療の進歩、HIV感染症の歴史的経過について話しました。近年、この分野は大変進歩しており、次々と新しい血液製剤が登場していることが紹介しました。血液製剤の補充だけではなく、非補充療法、遺伝子治療と血友病治療が多様化しています。遺伝子治療は、今年にも日本で治験が準備されており、治療に向かっています。血友病医療はHIV/HCV感染の時代を乗り越えて、新たな時代に入っており、多くの皆様とこの経験を共有し、今後の理解と協力をお願いしたいと話しました。

当日ご参加いただきました地域の先生方に心より感謝申し上げます。またご挨拶や座長の労をお取りいただいた院長先生、副院長先生、またご準備いただいた事務部スタッフの方々に深謝いたします。



第65回 おおさか健康セミナー開催報告

国立病院機構 大阪医療センター 乳腺外科 科長 増田 慎三

第65回おおさか健康セミナーを、2019年2月2日午後2時から大阪医療センター災害医療棟3階の講堂で開催しました。今回のテーマは『乳がん診療up-to-date2019』で、乳腺外科と形成外科が担当しました。

乳癌は女性のがんの中で最も多く（年間約9万人）40～60歳と壮年期に多いことも特徴です。一方で、適切な診断と最適な治療により、90%以上の方が再発なく治癒します。乳癌診療の歴史をふりかえると、大きく広く切除から乳房温存手術、センチネルリンパ節生検による腋窩リンパ節郭清の省略と外科切除の縮小、一方で、化学療法、ホルモン療法、分子標的治療とくすりによる全身治療の進歩、放射線治療との集学的治療とここ20年大きく変遷してきました。より積極的に癌を治すという方向性と、同じ程度の治療成績であればQOLを考慮しながらより楽にそれを得る、さらに患者さんやご家族の意向も加味され、一人一人に100点満点の治療をめざす、まさに「個別化診療」の時代となってきました。その視点から、乳

房再建、免疫療法や遺伝子検査などの最新の話題を取り上げました。

第1部の「乳癌術後の乳房再建」では、形成外科科長の吉龍先生から、多くの症例写真を用いなが



ら、様々な再建方法が紹介されました。人工バックを用いた再建も保険適応になり広まってきましたが、腹直筋や広背筋皮弁を用いた自家組織再建により、一人一人の乳房の形に合った左右対称の胸のふくらみを得られることが参加者の多くを占めた患者さんにはいろんな刺激があったものと思います。

第2部では「新時代の乳がん診療」とテーマを設け、増田が総論として上述の「個別化診療」について昨今の流れをお話し、その後、乳腺チーム医療の中核を担う3名の乳腺専門医が各論を担当しました。水谷医師から、BRCA遺伝性乳癌とそれに関連するPARP阻害剤が進行再発乳癌には新薬として登場したこと、本年度から保険適応になる見込みのがんゲノム検査（同時に数10から数100の癌に関連する遺伝子の状態を検査できる）の話題が提示されました。これらは親から子に伝わるDNAの診断ですが、一方で、その遺伝子の働き状態を示すRNAの網羅的検査により、再発リスクを推定したり、抗がん剤の効き具合を予想したりできる遺伝子発現パネル検査の成果は大谷医師から紹介されました。肺癌や皮膚癌などで先行して広まった免疫療法（免疫チェックポイント阻害剤）も乳癌のあるタイプには有効であることが臨床試験で証明され、今年度中には保険診療の中で使用できる見込みであり、八十島医師から、正しい免疫療法について理解を深めましょうとのメッセージが発信されました。

第3部は、乳がん看護認定看護師の四方さんから、「どうやって調べたらいいの？～乳がんのこと、治療や検査のこと、仕事のこと、お金のこと～」と題して、高度化する乳がん診療の中で、如何に正しく効率よく情報を収集するか、また上手に病気と付き合い、普段どおりの生活を楽しく送るための工夫など、患者さんに役立つ話題が一杯でした。

当日の参加者は、院外91名、院内12名の合計103名もの方々にご参加いただき、適切な質問もたくさんいただきました。ありがとうございました。

限られた時間の中で、多岐にわたる話題であったため、消化不良を感じられた参加者もあられたかと反省の一方、乳癌診療のダイナミックな変化の機運を感じ取っていただけたのではないかと期待します。大阪医療センター乳腺チームは、めまぐるしく進歩するがん診療の中で、臨床試験や新規薬剤の治験に積極的に参加し、情報の最先端に位置し、ひとりひとりにより最適な治療の提案を行い、安心した生活を送っていただけるように、これからも精進してまいります。

最後に本セミナーの企画、運営に協力していただいた方々、ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。



脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内

当院では、主に救急隊からの脳卒中・循環器疾患による患者搬送を受け入れできるよう、脳卒中・循環器ホットラインを設置しておりますが、本ホットラインは救急隊からの要請に限定したのではなく、広く各医療機関様からのご連絡も24時間お受けできる体制を取っています。

貴院かかりつけ患者様あるいは救急搬送された患者様で、脳卒中・心臓・大血管疾患の急変等が起こった際の搬送先として、当院のホットラインをぜひご活用ください。



独立行政法人 国立病院機構
大阪医療センター

〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL: 06-6942-1331 (代)

循環器ホットライン

06-6946-3544

循環器疾患24時間対応します。

脳卒中ホットライン

06-6946-3543

脳血管疾患24時間対応します。

医師及び消防局救急隊からの電話に限ります。

NHO PRESS ~国立病院機構通信~について

大阪医療センターは、国立病院機構（NHO: National Hospital Organization）という141の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS~国立病院機構通信~』を発行しています。

ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、ぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。



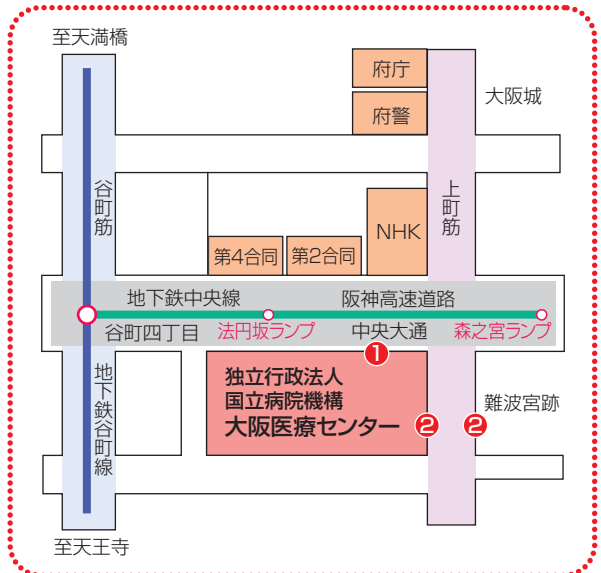
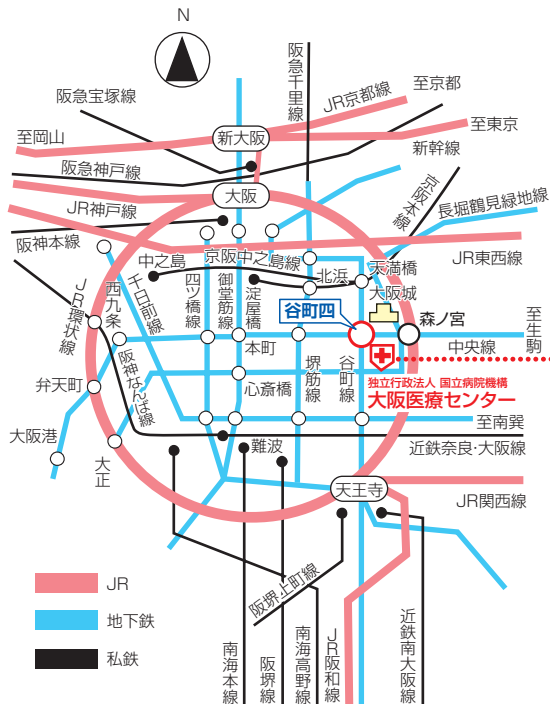
NHO PRESS

検索

QRコード



交通のご案内



① 地下鉄「谷町4丁目」11番出口 ② 市バス「国立病院大阪医療センター」

■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■バス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

■マイカー・タクシー

・阪神高速 13号 東大阪線

▼環状線経由の場合

「法円坂」出口 上町筋を右折すぐ

▼東大阪方面からの場合

「森之宮」出口 中央大通り直進、上町筋を左折すぐ

・上町筋と中央大通りの交差点の南西角

・お車の出入口は上町筋です。